

東京経済大学報

2022年度
第55巻 第1号



巻頭企画

躍	動	す	る	
T	K	U	卒	業 生

お笑いコンビ・たんぽぽ

川村エミコさん（経営学部卒）

経済学部生限定 新プログラム紹介

金融選抜プログラム・公共選抜プログラム

東京経済大学と多摩学

東経大の研究とSDGs ほか

東京経済大学

躍動する

TKU

卒業生

お笑いコンビ・たんぽぽ

川村エミコさん

KAWAMURA EMIKO 1979年 神奈川県生まれ。東京経済大学経営学部卒業。主な出演番組に「世界の果てまでイッテQ!」など。ブログ「川村エミコのカルガが寄ってきます!」のほか、X(旧Twitter)「おかっぱちゃんねる」も好評配信中。初のエッセー集「わたしもかわいく生まれたかったな」(集英社 発売中)。

東経大で出会った

「演劇」の世界

あの頃の熱い気持ちがいまの私の原点です

多様な業界で活躍する

東京経済大学の卒業生が登場するスペシャル企画。

今号は、お笑いコンビ・たんぽぽの

川村エミコさんに話を聞きました。

「その考えは違うよ!」
白熱したゼミの議論

1999年に東京経済大学へ入学されました。進学先を選んだ理由は何でしたか。

東経大に興味を持ったのは、塾の先生が「歴史があつていい学校だよ」と熱心に勧めてくれたのがきっかけです。国分寺近辺は自然が多く、せかせかしないでマイペースに過ごせそうな雰囲気も気に入りました。

私は浪人して入学しています。現役の頃、短大には受かっていたのですが、母が「学生時代は一年でも長い方がいいから」と、私の希望通り浪人させてくれました。母の言葉は正しかったなあと、いまも有り難く思っています。

—— 経済の仕組みやその理論に興味があつたそうですね。

高校の政治経済の授業で、需要・供給の関係について学んだ際に面白いなと思い、ケインズのことが好きになったんです(笑)。

自分でもケインズ経済学の本を読んで、「有効需要の大きさが総生産量が決まる」という有効需要の理論に感動していました。あと、フルネームはジョン・メイナード・ケインズっていうのかあ、とニヤニヤしたり(笑)。

大学の授業で学んでみると、そ

自分の頭で考え、発信すること
その大切さをゼミで学びました



れまで世の中になかった思想を唱えること、そしてそれが、批判もありつついまも主な考え方の一つになっていることってすごいなと改めて思いました。

—— 2年次からは、小林健一先生のゼミで学ばれましたね。

世界一位の経済大国・アメリカの経済ってどんなものだろうと興味があつたので、小林健一先生のゼミでアメリカ情報革命や企業形態論などについて学びました。

ゼミで印象深いのは、人と人は

こんなにも言い合いになるのか、ということ(笑)。普段の生活で、他人と熱く議論することってそんなにないですよ。でもゼミのグループ研究となると話は別。「それは違うんじゃない?」「え!?」私はこちら思うけど「その捉え方が違うんだよ」という感じで、随分ぶつかり合っていました。小林先生は、「経済事象には色々な要素が絡んでいるから自由に考えてみて」「皆それぞれの考えでいいんだよ」と温かく見守ってくださっていました。



自分の意見を持つこと、そしてそれを伝えることの大切さは、ゼミで気付かせてもらいました。本当にいい経験だったと思います。

まるでサーカス集団!? 憧れの演劇研究会へ

——演劇研究会「劇団みつばち」でも活動していました。演劇がお好きだったのですか。

幼い頃から暗くて静かな子だったんですが、舞台役者をしていた叔父の舞台を観劇して以来、舞台上に立つ人には密かにずっと憧れていました。ただ、高校時代は勇気が出ず、演劇部への入部は断念。大学に入って「これが最後のチャンスだ」と、演劇研究会に入ることを決めました。

4月のある土曜日、部室棟の周りをウロウロと4周くらい歩き回った末、意を決して部室のドアを開けようとしたら鍵がかかっていた……なんていうエピソードもありますが(笑)、無事に入会。部室の奥にはカッコいいOBまで居座っていて、「わあぁ、これが演劇研究会か!」と。本当に個性的で面白い人たちがたくさんいて、サーカスみたいでした。

今日、久しぶりに東経大にお邪魔したら、キャンパスが綺麗になっていてびっくりしたんですが、あの部室は当時のまま、ちゃんと

汚かった(笑)。なんだか安心しました。

——念願の「舞台上に立つ人」になって、いかがでしたか。

「天狗が目撃されたという現場に來ています。目撃者の方にインタビューしてみたいと思います」

これが、私の初舞台の人生初のセリフです。アナウンサー役の私が「天狗はどうでしたか?」と天狗本人にインタビューするというシュールなコントでした。

めちゃくちゃ緊張しましたが、「なんだ、この高揚感は」と不思議な感覚だったのを覚えています。

その次に出た舞台でのこと。終演後のアンケートに「私の演じた」夕子さんのシーンに感動して涙しました」と書いてくださった方がいたんです。人にこんなにも伝わるんだと思うと、嬉しくて嬉しくて。「私、これを一生続けよう」とその時に思いました。

舞台の脚本や演出も 手がけるように

——演劇の面白さに、次第にのめり込んでいったわけですね。

年4回あった「みつばち」の公演には全て参加していましたし、学外の小劇場にも出ていたので、休みなくずっと演劇をしていた

感じですね。

観劇も、毎週のように一人で行っていました。人気の劇団の脚本を買って、「会話って三言くらいで話が切り替わるんだ」「起承転結があるのか」と勉強したり、「私はこう見せたい」と自分なりのプロット*を考えるようになって。好きなことには夢中になる性格なんですよ。

大学2年の時の新人公演で、初めて脚本を書き、演出も担当させてもらいました。廃れた商店街を復活させるためのドタバタを描いた「マッハー老人トロピカル」もう一杯!もうダメだ!という作品。個性ある役者陣にどうやって演出側の思いを伝えるべきか、といったことも勉強になりました。

——「劇団みつばち」には、俳優の山中崇さんも在籍していましたよね。

山中さんは私の3学年上の先輩です。すごく優しく、入学直後に観劇にすすめる劇団を教えてもらったりしていました。あと、私は自分をアピールするのが上手なタイプではなかったのでも、「こういう仕事をしたいのかね?」みたいな相談をしたことも。「そこ難しいよね」と2人でしばらく話をしたのを覚えています。

※演劇などの筋構想

「やりたいです」の一言から 劇団初のスペイン公演が実現

1年間の準備を経て 初のスペイン公演へ

——特に忘れられない舞台はありますか。

4年生の夏に2週間ほど、「みづばち」の総勢23人でスペインに行き、公演をしたことです。

きっかけは、スペイン文学の荻内勝之先生(現・東京経済大学名誉教授)が声をかけてくださったこと。当初「やりたいです」と手を挙げたのは私だけだったんですが、「それなら一緒にやるよ」と同級生や先輩、後輩が名乗り出てくれて、劇団初の海外公演に向けて動き出すことに。

準備は1年がかりでした。作品は古事記をベースにした『ヒモトク』というもので、殺陣や踊りも取り入れました。演出は私、脚本はOBの方と共同で書き上げました。着物風の衣装や小道具なども、OGをはじめ多くの方々の助けを借りて作り、みんなですぺイン貯金をしてお金を貯めて。それから、東経大の「学生団体国外遠征助成」の選考を経て、資金援助もしていただきました。

——スペインでの観客の反応はいかがでしたか。

まず、マドリードの近くにあるペドロ・ベルナルドという田舎町を訪れ、町の闘牛場で上演しました。セリフ自体は日本語だったのですが、シーンごとに立ち上がって拍手をしてくれたり、公演後に子どもたちがチャンバラを真似て遊び始めたりと、届くものがあつたことを実感しました。

さらに南部のロンダという街では、年に一度のお祭りの中で公演をさせてもらえることに。ローカルテレビ局の取材を受けたり、持ち時間に合わせて脚本を急遽直したりと、ハプニングもありましたがとにかく楽しかった。やりたいことは声に出したら実現するんだな、大学に入って演劇を始めてよかったな、と心底思いました。

就職活動か、舞台か 岐路に立たされて

——お笑いに興味を持ったきっかけは、どんなことでしたか。

大学3年の時、東経大の文化祭に、さまざまさんがライブをしに来てくださったんです。当時の古い講堂に登場するなり、大竹さんが「なんだよ、公民館みてえじゃないか」と。私たち学生にとって

は「分かる!」という感じで、ドカーンと受けたんです。たった一言でこんなに人をハッピーにできるお笑いつてすごいと思いました。そのライブの時に、ホリプロの女芸人の募集要項の紙が置かれていて、面白そうだなと思って履歴書を送りました。

——大学3年という、就職活動の時期だったと思いますが、迷いなどはありませんでしたか。

実は、一般企業の就職活動もしていたんです。舞台仲間の中には就活に否定的な人もいましたが、私は自分の可能性を試すことは悪くないと思っていました。

ただ、それでもちゃんと岐路に立たされるといいうか、就活の面接と劇団の本番が重なったりする機会が増えてきて。どっちに行きたいだろうと考えると、やっぱり「舞台に立ちたい」という思いが強いことに気付かされました。

——その後はどんな進路を?

大学4年の終わり頃、所属していた劇団での活動が終了するときに。ちょうどそのタイミングでホリプロから1年ぶりに連絡があり、こちらでお世話になることにしました。

ただ実は、4年生の時に英語を2単位落としてしまい、留年したんです。演劇で忙しかったのは



2004年3月、小雨が降る中での卒業式(本人提供)



18年後の2022年、堂々の母校凱旋!



確かですが、点数を取れなかった私が悪い(笑)。それで大学5年生となり、並行して芸人としてのお仕事をしていました。

舞台上にバラエティー YouTubeも貪欲に

——最近バラエティー番組はもちろん、エッセーやYouTube配信でも注目されていますね。

白鳥(久美子)さんとの「たんぽぽ」という大事なベース、帰ってくる場所があるので、自由に活動ができる感じはありますね。

YouTube「おかっぱちゃんねる」では、生配信や学校生活の悩みなどに答える企画もやっているのですが、ファンの方とつながれることが嬉しいんです。皆それぞれにハードなことはあるから、少しでも寄り添えたら、という気持ちでやらせていただいています。

一昨年に出版したエッセー『わたしもかわいく生まれたかったな』では、幼い頃の思い出や感情を綴ることで、そのすべてが自分を形作ってくれているんだと再確認できました。書くというアウトプットをしたことで心に空気ができたので、また色々なことを吸収したり感じたりできる気がします。読んでくださった方にも何か前向きな影響をもたらすことができれば嬉しいです。

——学生時代の経験がいまに生きていると思つことはありますか。

演劇を通して、思いを実現させる「熱いエネルギー」のようなものを持てたことは大きかったと思います。初めて自分の脚本・演出で舞台を上演した時、客席の様子を覗いて「こんな顔で笑ってく

無駄なことなんて一つもない 遊びも学びも、全力で楽しんで

身を粉にして遊び 身を粉にして学べ

——今後やってみたいことは。

お笑いのお仕事にはまだまだ可能性があると思うので、これからも分野を問わず貪欲に挑戦していきたいと思っています。

あと、お仕事という枠ではないかもしれないですが、やってみたいのは「職業文化祭」のようなイベントを開催すること。若い学生さんが、キラキラと生きている人たちから「この仕事って楽しいよ」「こんな生き方もあるよ」という話を聞ける場があったらいいな。いまの時代、職業を一つに固定しなくていいし、ライフスタイルも多様じゃないですか。働き方・生き方を考えるイベント「職

れているんだ」と感動したことは、いまでもよく覚えています。

人に喜んでもらいたいという根本の気持ちは当時と変わっていないし、個性豊かな仲間とがむしやうに頑張った東経大での日々があったからこそ、いまも熱い思いを持ち続けられている気がします。

業文化祭」、よかったら東経大さんで開催しませんか?(笑)

——現役の学生や若い世代に、メッセージをお願いします。

学生時代は、身を粉にして遊んでほしいし、身を粉にして勉強してほしいですね。どんな経験も失敗も、無駄なことは一つもないですから。自分の興味のあることはもちろん、人から誘われたこともどんどんやってみて。その中で、夢中になれるものに出会ったり、将来の仕事につながる種が見つかったりするかもしれません。

私も、40歳を過ぎても日々反省するし、勉強することだらけ。まだまだヒョッコです。一緒に頑張らしましょう!

金融選抜プログラム・公共選抜プログラム

経済学部長 中村 豪

2023年度より、経済学部では「金融選抜プログラム」と「公共選抜プログラム」をスタートさせます。金融と公務員は、志望する学生の多い業種であると同時に、今まさに大きな変化のただ中にある分野でもあります。金融ではビッグデータの活用など、新たな技術に基づく事業展開が進められています。公共分野では、社会状況や環境が変化する中、地域住民からのニーズにきめ細かく応えることがこれまで以上に求められています。このような変化に対応できる人材を育成するために、2つの少人数選抜制プログラムを立ち上げ、新たな科目を設けるとともに、既存のカリキュラム体系も活用して、課題の発見や解決に向かう力を養うことを目指しています。



金融選抜プログラムのねらいと特色

金融選抜プログラムでは、2つの新設科目と既存の金融関連科目の体系的な学習により、金融の先進領域に関する学術的基礎の理解と、それを実践的に活かすスキルを身に付けます。新設科目のうち「金融データ分析」では、金融に不可欠なデータ分析能力



を高めます。もう1つの新設科目「金融実践講座」では、同窓会組織のひとつである奨学金会とも連携して、金融の現場で活躍されているOB・OGの方々から業界の最前線の姿を学びます。金融を目指す学生にはこれまでも金融キャリア講座によるキャリア形成支援を行っており、その内容を一段と充実させます。

金融分野における人材育成という点、さまざまな資格取得支援のイメージもあるかと思いますが、金融選抜プログラムでもCSC講座を利用したサポート体制を用意しますが、それに留まらず、新設科目を含め2年次から専門科目を多面的に学ぶことで、金融の分野で活躍するための総合力を養うこととなります。

公共選抜プログラムのねらいと特色

公共選抜プログラムでは、2年次におけるワークショップ科



目と、3年次におけるインターンシップ科目が特色となります。ワークショップ形式で学習することで、他の人々を巻き込んで協力しながら課題解決に当たるためのリーダーシップや対話力を育成し、3年次の公務員インターンシップにおいて、地域の実情を的確かつ敏感に感じ取る力を養うこととなります。これらに加え、既存のカリキュラムにある地域経済や社会保障、環境等の科目を体系的に学習することで、社会政

策に対する経済学的な見方や数的思考を活用する力も身に付けていきます。

公共選抜プログラムでもCSC講座と連携し、公務員試験に向けた学習もサポートします。育成する人材は公務員に限らず、商工会議所、観光協会などの半官半民の組織や、NPO、シンクタンクといった民間の立場から公共政策を支える企業等で活躍する人も想定しています。

学生、ご父母、卒業生の皆さんへ

2つのプログラムとも1年次の2期に選抜を行い、1学年15名ずつが2年次より所属します。これらの分野に関心があり、自分の力を高め続ける意欲を持つ経済学部1年生のチャレンジを待っています。ご父母や卒業生の皆さんには、そのような学生の挑戦を後押しし、サポートしていただければ幸いです。

『東京経済大学報』の読者にはかつて「多摩学」講義を受講した方が少なからずおられよう。

多摩地域を対象にした地域研究を「多摩学」という。1990年代において、東京経済大学は全国的な多摩学研究拠点であった。本学の研究者らは「学問の諸専門分野を協力させながら、地域の生活に着目し、これをトータルに捉え、その自治なり幸福の方向を考える研究がもっと盛んになってよい」との認識の下、「劇場多摩の舞台装置、そこに踊る人々の昨日・今日・明日をいろいろな角度から研究しよう」と試み、共同研究の成果として『多摩学のすすめⅠ、Ⅱ、Ⅲ』（けやき出版、1991年、1993年、1996年）を刊行した。このうち、第Ⅰ巻は、1990年度の特別企画講義「多摩学」の成果の一部であり、第Ⅱ巻は1992年に開講された「多摩学Ⅱ」の成果だった。特別企画講義は、学生だけでなく、多くの市民も参加し、盛況だったという。

それから30年。東京経済大学

創立120周年記念事業として「21世紀の多摩学」研究会（尾崎寛直経済学部教授主宰）が組織され、多摩地域の「今」の課題と可能性を探ろうとしている。研究分野の異なる、学内の複数の研究者による「学問の諸専門分野が協力」しただけでなく、地域史研究者や多摩地域の現場に詳しい方々の協力もあり、多摩地域の「今」に関する最新の知見を得ることができた。その成果は、『新・多摩学のすすめ（郊外）の再興』（2021年、けやき出版）と『21世紀の多摩学』研究会記録』（2022年、東京経済大学地域連携センター）として公表している。また、2022年度の特別企画講義として「21世紀の『多摩学』のすすめ」を開講しており、学生だけでなく、多くの市民も参加している。

こうした「21世紀の多摩学」研究は、本学が多摩地域に立地しているために行われているが、多摩地域の事象も30年経った今は変化している。戦後開拓され続け、「暮らす空間」、「働く空間」、「学ぶ

空間」として機能してきた多摩地域は、歴史的な変動期を迎えており、「開拓される多摩地域」とは逆方向の現象が次々と起こっている。大規模工場・企業の多摩地域からの撤退や大学の都心回帰がすでに始まっており、高齢化、空き家問題も深刻化し、人口減少も現実問題になっている。

こうした時代における「地域の生活」と「その幸福の方向」のためには、何が必要なのか。まず「多摩」という「舞台で踊る人々」の確保が必要であり、人口の社会増が望まれる。「多摩地域内で働く人々」や「多摩地域をベッドタウンとして位置づける人々」の増加なしに、人口の社会増はありえず、多摩地域の「地域の生活」と「その幸福」の維持もありえない。それでは、多くの人々によって多摩地域が「暮らしの舞台」として選ばれるためには、何が必要なのか。上記2冊は、これらの課題を考える際の素材となる。



『「21世紀の多摩学」研究会記録』
(2022年、東京経済大学地域連携センター)

非売品。東京経済大学図書館および地域連携センター(1号館2階)で閲覧可能。
※本学学生、教職員以外の方で閲覧を希望される場合、事前に地域連携センター(電話:042-328-7950)にご連絡ください。



『新・多摩学のすすめ(郊外)の再興』
(2021年、けやき出版)

全国の書店またはオンラインショップで購入が可能。

近隣の子どもたちと国分寺の豊かさを考えるイベント 第3回国分寺学派開催

足もとを覗いてみよう！

国分寺の自然とSDGs

武蔵野の自然から海と陸の豊かさを考える



ゴールデンウィーク初日の2022年4月29日(金・祝)、子どもたちの朗らかな声が東経の森に響き渡りました。本学は、2021年秋、大学が果たすSDGsのひとつとして、地域の皆さんと共に考え学び、新しい生活スタイルを作り上げていく「国分寺学派」をスタートさせました。第3回を迎えた今回は、サンゴの研究でも知られる全学共通教育センターの大久保奈弥教授が講師を務め、地元の子どもたちを対象にSDGs目標の14「海の豊かさを守ろう」、15「陸の豊かさを守ろう」を考える観察・学習会を行いました。

当日は、新型コロナウイルス感染症や悪天候による欠席も多く出る中、小学生から中学生の子どもたちとその保護者十数名を中心に観察・学習会が行われました。まずは、創立120周年記念事業の一環で整備された新次郎池を中心とした東経の森で、スマホ顕微鏡を手に自由に森を散策し、興味のある植物や昆虫、土、水などをじっくり観

察する時間を設けました。集合場所となった大倉喜八郎進一層館から、観察会の会場となった新次郎池周辺に移動した参加者は、一様に近隣にこのような環境があったことにまず驚かれ、その後は、顕微鏡で写真撮影をしたり、講師の大久保教授に質問をしたりと思いおもいに観察の時間を過ごしました。後半は、大倉喜八郎進一層館のホールに戻り、会場内の大スクリーンにスマホ顕微鏡を使用して観察会で撮影してきた写真を投影し、自分の発見したことについて大学のゼミしながらに他の参加者の前でプレゼンテーションを行いました。発表を行った子どもたちは「大きなホールの舞台で人の前で発表するのはとても緊張した」「みんなに発見したのを見てもらえて嬉しかった」など感想を述べていました。

学習会最後は、講師の大久保教授がスライドを使用して、国分寺で生まれた野川がどのように辿って海へ続くのか、「森は海の恋人」と称して植林運動を30年以上続ける気仙沼のカキ漁師・畠山重篤氏の話をもとに陸と海の関係性や、海を守ることを大変さなどを伝えました。

会の終了後、大久保教授にお持ちいただいたサンゴの骨やタツノオトシゴの標本、ヒドラなどを見せてもらい、普段見ることのない生物に触れ、参加された方たちからは充実した会であったと評価をいただきました。

東京経済大学SDGsシンポジウムシリーズのアーカイブ映像はこちらからご覧いただけます。

アーカイブ映像



東経大の研究とSDGs

全学共通教育センター 准教授 小田 登志子



私が担当する「言語学」では手話について紹介しています。誤解されがちですが、手話はジェスチャーではなく、日本語や英語のような音声言語と同じ自然言語です。そして日本手話は日本語とは別の独立した言語です。アメリカ手話は英語とは別の言語です。手話は聴覚障がい者が母語として獲得できる言語であり、これを禁じた場合その人は完成した言語のない人になってしまう可能性があります。手話による教育が重要であることがわかります。

アメリカではSDGsが唱えられるずっと前から、手話話者に対する合理的配慮が行われてきました。私が博士課程で学んだ米コネチカット大学では手話研究が盛んなため、手話話者がいつも周りにいました。そして手話話者が授業を受ける際は、手話通訳者とノートテイクが授業の内容を逐一通訳・記録していました。

よく、「障がい者にとっていいことは他の人にもいいことだ」と言われます。私をはじめ英語に苦労していた留学生は、手話話者の学生の所に行ってノートテイクが取ったノートを見せてもらったものです。手話話者に対する配慮の恩恵を私も受けていたことになります。

スターバックスコーヒー nonowa国立店は聴覚に障がいのある従業員と聴こえる従業員が共に働く国内

初のサイニングストアですが、聴覚障がいの人だけでなく、車いすの人なども多く来店するそうです。サイニングストアであることが多様な人を歓迎するというメッセージとして受け止められているのでしょう。

「言語学」で手話を扱うと、さまざまな言語的困難を抱える学生から声が寄せられます。「私には読字障がいがあります。外国語を覚える時の工夫はありますか?」「私には吃音があり小さい頃から音読が苦痛でした」。手話話者のありのままの姿が認められると知った時、これらの学生が自分のあり方も受け入れられると感じたからだと推測しています。

東京経済大学では「日本手話」を履修することができます。学内でも知る人はわずかだと思いますが、2018年の時点で「日本手話」を語学科目として全学部全専攻の学生を対象に開講している大学は、東京経済大学を含めて全国で10校に満たなかったという調査結果があります。SDGs推進に取り組む本学が誇るべき事実です。

多様な言語を使用する人々に対して平等に質の高い教育を与えようと私たちが一歩踏み出す時、それはすべての人にとってよりよい社会を目指すことにつながると授業を通して伝えたいと思っています。



スターバックスコーヒー nonowa国立店はJR中央線国立駅で降りて中央改札を出ると目の前にある。



日本手話で「ありがとう」。左手の甲から右手をタテに垂直に上げる。



2022年度 入試結果報告

入試課長 若木 和之



2022年度入試 私立大学志願状況

2022年度は、前年比10%以上の大幅減となった21年度からほぼ横ばいの前年比99.8%で3年連続の志願者減となりました【グラフ1】。大規模大学に志願者が集中し、中小規模大学では減少傾向が継続、集計対象校の66.8%が志願者減、49.3%は10%以上の大幅減となりました。

2022年度志願状況の特徴として、次のようなことが挙げられます。①受験生の大

都市志向・大規模大学志向が復活、②「2月入試」への強質な出願、③コロナ禍の影響で出願校数の絞り込みが前年度から継続、④共通テスト難化等による共通テスト利用方式の敬遠傾向、⑤総合型、学校推薦型へのシフトなどです。

(豊島経男事務所「2022年度一般選抜志願状況レポート最終版」より)

本学の2022年度 入試結果

このような入試環境の中、本学の2022年度入試(第一次対象)の総志願者数は、10,481人(前年比99.8%)。内、一般選抜・共通テスト利用選抜の志願者数は、9,521人(前年比99.5%)でした【グラフ2】。多くの中小規模大学で志願者数が減少する中、本学はほぼ前年並みの志願者数を維持することができました。一般選抜前期ベスト2型の試験日を1日程追加した効果が大きかったと言えます(前年比

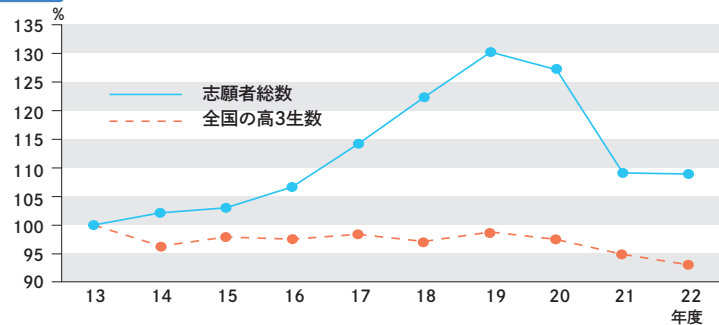
140.7%)。また、共通テスト利用選抜中期4科目型を新設し、志願者数はそれ程多くなかったものの、国公立大学を視野に入れ幅広く学習している層などからの出願が見られました【表1】。

入試前の段階では、コロナ禍の影響で前年は実施を断

念した来場型オープンキャンパス等のイベントを感染症対策に留意して開催することができました。低学年時にうまく情報収集できなかった受験生に生の情報を届けられたことは、入試結果に大きく影響したものと思われます。

2023年度入試では、一般選抜前期2教科型を「得意科目2倍方式」とするなどの入試制度変更があります。引き続き、感染症対策を万全にしたオープンキャンパス、大学公式サイト等を通じて、受験生の皆様へ新たな情報をお伝えしてまいります。

グラフ1 私立大学志願者総数(2013年度を100とした10年間の推移)



グラフ2 本学一般選抜、共通テスト利用選抜志願者数推移

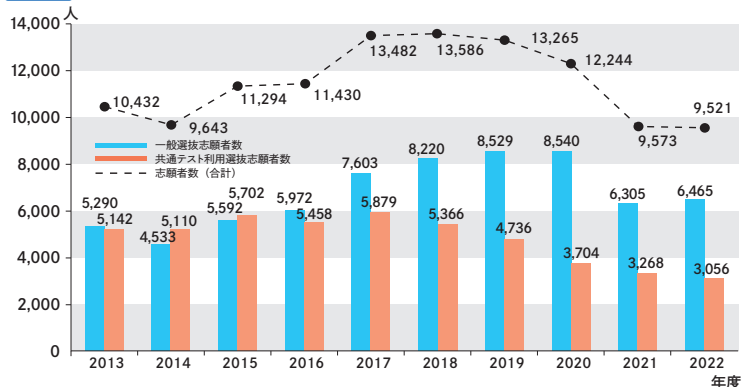


表1 一般選抜、共通テスト利用選抜志願者数2カ年比較

		教科型	2021年度	2022年度	前年比
一般	前期	3教科型	3,186	2,690	84.4%
		ベスト2型	1,648	2,318	140.7%
	後期	2教科型	757	736	97.2%
		2教科型	714	721	101.0%
共テ	前期	3教科型	2,334	1,975	84.6%
		2教科型	856	865	101.1%
	中期	4科目型	—	115	—
	後期	3教科型	78	101	129.5%
合計			9,573	9,521	99.5%

2021年度

(2022年3月卒業生)

就職状況報告

キャリアセンター長 齋藤 隆大



2021年度の就職環境

新卒者の就職動向を予測するための指標として広く活用されているリクルートワークス研究所調査は、次のように大卒求人倍率を公表しました。

「2022年3月卒業予定の大学生・大学院生対象の大卒求人倍率は1.50倍と、前年6月調査の1.53倍より0.03ポイント微減した。今年は微減したものの1.5倍台を維持し、底堅い結果となった。」企業の採用意欲は堅調であるとはいえ、コロナ前の2019年度の水準(1.83倍)からは依然として開

きのある結果となりました(大卒求人倍率の推移については【資料】、一番下の折れ線参照)。

2021年度のキャリア支援

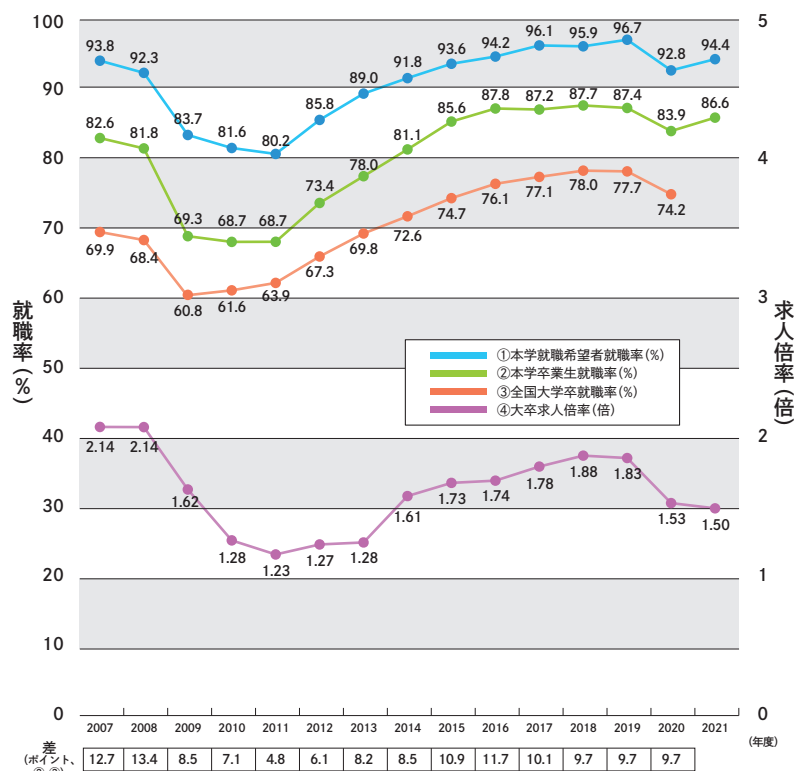
コロナ禍でも安心した環境で面談が受けられるよう、キャリアセンター内の面談ブースを拡張・増設しました。個別面談は学生が希望する形式(対面・WEB)で予約を受け付け、年間1万件以上の相談に応じました。また、就職支援行事は対面とオンラインを併用し、全員面談等の低年次支援から3年生対象の各種ガイダンス、4年生対象の合同企業説明会等、年間372件の支援行事を開催しました。

企業に対しては、企業訪問や電話、オンラインツールを活用した情報交換、アンケート調査などさまざまな形で関係の維持・強化に努めました。

2021年度(2022年3月卒業生)の就職状況

前述の支援の結果、2022年3月卒業生の就職希望者就職

資料 本学就職率・全国大学卒就職率・大卒求人倍率推移



2022年度のキャリア支援

率は94.4%で、前年度(92.8%)比+1.6ポイント、卒業生就職率は86.6%で、前年度(83.9%)比+2.7ポイントと、大卒求人倍率が微減の中で、前年度の就職率を上回る結果となりました。(就職希望者就職率、卒業生就職率の推移については【資料】、上2つの折れ線参照)。

採用活動の早期化への対応として、主に3年生向けの支援行事の開催時期を全体として早め、就職活動の早めの準備をこれまで以上に促していきます。また、インターンシップが職業観育成・就職活動の早期準備に寄与する点、および

一部でインターンシップ参加者に対しての早期採用選考が行われている点を踏まえ、インターンシップ支援を強化して実施します。キャリアセンターでは、企業の採用動向を注視しつつ、対面・オンラインとさまざまな形を駆使し、学生一人ひとりを最後まで粘り強く支援してまいります。

- ① 本学就職希望者就職率: 該当年度3月卒業生 3月31日時点の数値、就職決定者数/(進路判明者数-就職を希望しない者の数)
 ② 本学卒業生就職率: 該当年度3月卒業生 3月31日時点の数値、就職決定者数/卒業生数
 ③ 全国大学卒就職率: 文部科学省学校基本調査、該当年度の就職者総数/全国の大学学部卒卒業生数 ※例年12月に公表
 ④ 大卒求人倍率: リクルートワークス研究所調査、求人総数/民間企業就職希望者数

2021年度 決算書概要

2022年度 予算書概要

令和3年度収支決算

資金収支計算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで (単位:円)

科目	予算	決算	差異
収入の部			
学生生徒等納付金収入	7,096,678,000	7,098,683,500	△ 2,005,500
手数料収入	307,497,000	278,786,098	28,710,902
寄付金収入	20,004,000	73,567,264	△ 53,563,264
補助金収入	883,666,000	895,186,173	△ 11,520,173
資産売却収入	1,420,522,000	1,562,033,939	△ 141,511,939
付随事業・収益事業収入	58,377,000	58,056,900	320,100
受取利息・配当金収入	242,000,000	255,580,662	△ 13,580,662
雑収入	262,335,000	296,400,788	△ 34,065,788
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	2,663,260,000	2,746,942,360	△ 83,682,360
その他の収入	518,450,000	525,632,902	△ 7,182,902
資金収入調整勘定	△ 3,061,238,000	△ 3,047,241,853	△ 13,996,147
前年度繰越支払資金	7,606,983,000	7,606,983,139	—
収入の部合計	18,018,534,000	18,350,611,872	△ 332,077,872

支出の部			
人件費支出	4,526,847,000	4,496,519,903	30,327,097
教育研究経費支出	2,452,016,000	2,333,361,981	118,654,019
管理経費支出	429,332,000	399,236,587	30,095,413
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	43,583,000	30,384,900	13,198,100
設備関係支出	160,841,000	160,690,441	150,559
資産運用支出	3,670,915,000	3,153,712,673	517,202,327
その他の支出	95,522,000	95,603,090	△ 81,090
(0)			
〔予備費〕	10,000,000	—	10,000,000
資金支出調整勘定	△ 45,054,000	△ 127,272,666	82,218,666
翌年度繰越支払資金	6,674,532,000	7,808,374,963	△ 1,133,842,963
支出の部合計	18,018,534,000	18,350,611,872	△ 332,077,872

貸借対照表

令和4年3月31日 (単位:円)

科目	本年度末	前年度末	増減
資産の部			
固定資産	37,166,617,012	36,589,466,375	577,150,637
(有形固定資産)	(18,434,548,227)	(19,027,481,787)	(△ 592,933,560)
(特定資産)	(8,848,589,123)	(8,499,172,747)	(349,416,376)
(その他の固定資産)	(9,883,479,662)	(9,062,811,841)	(820,667,821)
流動資産	8,036,138,744	7,753,662,974	282,475,770
資産の部合計	45,202,755,756	44,343,129,349	859,626,407
負債の部			
固定負債	2,912,979,365	2,915,706,462	△ 2,727,097
流動負債	3,220,096,264	3,267,693,748	△ 47,597,484
負債の部合計	6,133,075,629	6,183,400,210	△ 50,324,581
純資産の部			
基本金	40,212,440,649	39,809,468,941	402,971,708
第1号基本金	33,810,375,029	33,712,352,846	98,022,183
第2号基本金	1,133,814,414	833,814,414	300,000,000
第3号基本金	4,742,251,206	4,737,301,681	4,949,525
第4号基本金	526,000,000	526,000,000	0
繰越収支差額	△ 1,142,760,522	△ 1,649,739,802	506,979,280
純資産の部合計	39,069,680,127	38,159,729,139	909,950,988
負債及び純資産の部合計	45,202,755,756	44,343,129,349	859,626,407

事業活動収支計算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで (単位:円)

科目		予算	決算	差異	
教育活動収支	事業活動 収入の部	学生生徒等納付金	7,096,678,000	7,098,683,500	△ 2,005,500
		手数料	307,497,000	278,786,098	28,710,902
		寄付金	25,964,000	79,304,752	△ 53,340,752
		経常費等補助金	883,666,000	895,186,173	△ 11,520,173
		付随事業収入	58,377,000	58,056,900	320,100
		雑収入	262,335,000	291,720,788	△ 29,385,788
		教育活動収入計	8,634,517,000	8,701,738,211	△ 67,221,211
	事業活動 支出の部	人件費	4,509,809,000	4,491,732,310	18,076,690
教育研究経費		3,224,748,000	3,113,743,206	111,004,794	
管理経費		446,134,000	416,039,338	30,094,662	
徴収不能額等		0	0	0	
教育活動支出計		8,180,691,000	8,021,514,854	159,176,146	
教育活動収支差額		453,826,000	680,223,357	△ 226,397,357	

教育活動外収入	受取利息・配当金	242,000,000	255,580,662	△ 13,580,662
	その他の教育活動外収入	0	4,680,000	△ 4,680,000
	教育活動外収入計	242,000,000	260,260,662	△ 18,260,662
教育活動外支出	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0
教育活動外収支差額		242,000,000	260,260,662	△ 18,260,662
経常収支差額		695,826,000	940,484,019	△ 244,658,019

特別収支	資産売却差額	3,794,000	26,489,563	△ 22,695,563
	その他の特別収入	6,000,000	9,509,576	△ 3,509,576
	特別収入計	9,794,000	35,999,139	△ 26,205,139
特別支出	資産処分差額	6,680,000	66,532,170	△ 59,852,170
	その他の特別支出	0	0	0
	特別支出計	6,680,000	66,532,170	△ 59,852,170
特別収支差額		3,114,000	△ 30,533,031	33,647,031

(0)			
〔予備費〕	10,000,000	—	10,000,000
基本金組入前当年度収支差額	688,940,000	909,950,988	△ 221,010,988
基本金組入額合計	△ 413,353,000	△ 402,971,708	△ 10,381,292
当年度収支差額	275,587,000	506,979,280	△ 231,392,280
前年度繰越収支差額	△ 1,649,740,000	△ 1,649,739,802	△ 198
基本金取崩額	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△ 1,374,153,000	△ 1,142,760,522	△ 231,392,478
(参考)			
事業活動収入計	8,886,311,000	8,997,998,012	△ 111,687,012
事業活動支出計	8,197,371,000	8,088,047,024	109,323,976

令和4年度予算

資金収支予算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで (単位: 千円)

科目	4年度予算	3年度予算	増減 (△)
収入の部			
学生生徒等納付金収入	7,097,631	7,096,678	953
手数料収入	275,654	307,497	△ 31,843
寄付金収入	20,180	20,004	176
補助金収入	805,855	883,666	△ 77,811
資産売却収入	2,381,207	1,420,522	960,685
付随事業・収益事業収入	63,574	58,377	5,197
受取利息・配当金収入	253,000	242,000	11,000
雑収入	291,562	262,335	29,227
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	2,662,986	2,663,260	△ 274
その他の収入	643,657	518,450	125,207
資金収入調整勘定	△ 2,902,450	△ 3,061,238	158,788
前年度繰越支払資金	6,674,532	7,606,983	—
収入の部合計	18,267,388	18,018,534	248,854
支出の部			
人件費支出	4,543,426	4,526,847	16,579
教育研究経費支出	2,623,202	2,452,016	171,186
管理経費支出	455,358	429,332	26,026
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	65,895	43,583	22,312
設備関係支出	157,648	160,841	△ 3,193
資産運用支出	3,643,088	3,670,915	△ 27,827
その他の支出	35,000	95,522	△ 60,522
[予備費]	10,000	10,000	0
資金支出調整勘定	△ 35,000	△ 45,054	10,054
翌年度繰越支払資金	6,768,771	6,674,532	94,239
支出の部合計	18,267,388	18,018,534	248,854

事業活動収支予算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで (単位: 千円)

科目		4年度予算	3年度予算	増減 (△)	
教育活動収支	収入の部 事業活動	学生生徒等納付金	7,097,631	7,096,678	953
		手数料	275,654	307,497	△ 31,843
		寄付金	20,180	25,964	△ 5,784
		経常費等補助金	805,855	883,666	△ 77,811
		付随事業収入	63,574	58,377	5,197
		雑収入	291,562	262,335	29,227
		教育活動収入計	8,554,456	8,634,517	△ 80,061
	支出の部 事業活動	人件費	4,480,757	4,509,809	△ 29,052
		教育研究経費	3,368,425	3,224,748	143,677
		管理経費	470,499	446,134	24,365
		徴収不能額等	0	0	0
		教育活動支出計	8,319,681	8,180,691	138,990
	教育活動収支差額		234,775	453,826	△ 219,051
	教育活動外収支	収入の部 事業活動	受取利息・配当金	253,000	242,000
その他の教育活動外収入			0	0	0
教育活動外収入計			253,000	242,000	11,000
支出の部 事業活動		借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
教育活動外収支差額		253,000	242,000	11,000	
経常収支差額		487,775	695,826	△ 208,051	
特別収支	収入の部 事業活動	資産売却差額	0	3,794	△ 3,794
		その他の特別収入	2,000	6,000	△ 4,000
		特別収入計	2,000	9,794	△ 7,794
	支出の部 事業活動	資産処分差額	44,039	6,680	37,359
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	44,039	6,680	37,359
	特別収支差額		△ 42,039	3,114	△ 45,153
〔予備費〕		10,000	10,000	0	
基本金組入前当年度収支差額		435,736	688,940	△ 253,204	
基本金組入額合計		△ 449,708	△ 413,353	△ 36,355	
当年度収支差額		△ 13,972	275,587	△ 289,559	
前年度繰越収支差額		△ 1,374,153	△ 1,649,740	275,587	
基本金取崩額		0	0	0	
翌年度繰越収支差額		△ 1,388,125	△ 1,374,153	△ 13,972	
(参考)					
事業活動収入計		8,809,456	8,886,311	△ 76,855	
事業活動支出計		8,373,720	8,197,371	176,349	

東京経済大学への
ご寄付について

東京経済大学へのご寄付につき
ましては、卒業生、ご父母をはじめ
学内外の多くの皆様からのご支
援ご協力をいただいております。
皆様のご厚情に深く感謝申し上げ
ます。

新型コロナウイルス感染症によ
る感染者数は減少傾向にあり、大
学も本来の活動状況に近づきつつ
あります。今後も大学をあげて学
生支援と学修環境の整備や感染症
対策を図ってまいります。引
き続き皆様のご支援を賜りますよ
うお願い申し上げます。

ここに、前号掲載以降にご寄付
をいただきました皆様のご芳名を
掲載させていただきます。なお、
ご芳名の掲載にあたりましては、
ご本人様のご了解をいただいた方
のみとさせていただきます。

二〇二二年七月

学校法人

東京経済大学

理事長 菅原 寛貴

東京経済大学

学長 岡本 英男

※個人情報のためWEB掲載は控えさせていただきます。

大学奨学基金への寄付金

国際交流奨学基金への寄付金

大学研究・研修奨励基金への寄付金

国際交流基金への寄付金

スポーツ振興基金への寄付金

アドバンスプログラム推進基金への寄付金

修学支援特別奨学寄付金

スポーツ文化振興募金

その他の寄付金

教育振興資金

本学が募集している各基金の詳細については、
東京経済大学公式サイトをご覧ください。
<https://www.tku.ac.jp/tku/kifu/shogaku.html>



東京経済大学へのご寄付をお考えの方は
こちらからお願いいたします。
<https://fundexapp.jp/tku/entry.php>



各サークルへのご寄付をお考えの方

●インターネットによるクレジット決済の寄付をお考えの方は、上の二次元コードより本学寄付金公式サイトの寄付目的「その他寄付金」を選択いただき、下段の寄付目的（その他）欄に希望のサークル名をご記入ください。

振り込みによるご寄付をお考えの方

●ゆうちょ銀行からのお振込みをご希望の方で、専用の振込用紙が必要な方は、校友センター募金室までご連絡ください。専用振込用紙をお送りいたします。

ゆうちょ銀行、銀行から直接お振込みをされる方は、以下の口座番号となります。

ゆうちょ銀行

□口座番号 00180-2-263663

□加入者名 学校法人東京経済大学寄付金口

三菱 UFJ 銀行

支店名 国分寺支店

□口座番号 (普) 02836543

□口座名義 学校法人東京経済大学寄付金口

■寄付金に関するお問い合わせはこちらまでお願いいたします。

総合企画部校友センター募金室

TEL 042-328-6100

MAIL bokin@s.tku.ac.jp

第27回ホームカミングデー 2022 葵友会秋季懇親会 - オンライン開催のお知らせ -

今年度のホームカミングデー・葵友会秋季懇親会は、密を避ける、飲食を行わないなどの制約があることから、オンラインにて開催することにいたしました。内容は現在検討中です。遠方の皆様にも楽しんでいただけるよう、コンテストなども企画しています。詳細は同封のチラシと、同窓会誌「東京経済」10月号^(※)をご覧ください。なお、例年好評をいただいております手帳は、昨年同様、下記の要領で郵送いたします。ご希望の方はお申し込みください。※同窓会誌「東京経済」10月号は全卒業生に郵送する予定です。

●手帳申込方法（申込締切：2022年11月末）※学生手帳ではありません

以下の太枠を切り取り郵便番号・住所・氏名・番号・連絡先を記入し、送料として390円分の切手を同封して下記送付先へ郵送してください。

郵便番号	—		
住所			
氏名	様		
	(卒業生番号：A)		
連絡先	＜すぐに連絡が取れる電話番号＞		
手帳2023 申込 大学報	受付：	切手同封確認 ☐	発送：

※ポスト投函日を控えお手元にコピーを保存しておいてください。

※お一人様1冊となります。

※11月上旬から大手町サテライトより順次発送いたします。年内に届かない場合はご連絡をお願いします。

※例年の冊数を用意いたしますが、上限に達し次第終了とさせていただきます。

※お申し込みの皆様には、手帳と一緒に「葵友会年会費納入のお願い」等を同封させていただきます。ご協力をよろしくお願いいたします。

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-6-1 大手町ビル 533 号室
東京経済大学大手町サテライト ホームカミングデー手帳受付係宛

お問い合わせ：東京経済大学校友センター

Tel：03-3211-6735（大手町サテライト）Tel：042-328-8033（国分寺本部）

Mail：tokeikiyukai@s.tku.ac.jp（残数の確認等）

大倉喜八郎記念東京経済大学学術芸術振興会 \\ 会員募集中! /

学術芸術活動の概要

著名な学者による講演やシンポジウム、最新の学問の成果についての解説的な講座、有力な芸術家による公演など、学術芸術活動を行います。

●2022年度実施予定企画 ※詳細は確定次大学公式サイトに掲載いたします。

学術講演会

日時：2022年11月5日(土)

講師：茨城大学理工学研究科（理学野）地域環境科学領域教授 岡田 誠氏

芸術公演

日時：2022年12月3日(土)

出演：テノール歌手 佐野 成宏氏

日時：2023年3月4日(土)

出演：実践女子大学名誉教授 栗原 敦氏
女優 竹下 景子氏

加入案内（資料請求）

下記の二次元コードもしくは東京経済大学広報課までお問い合わせください。

TEL：042-328-7900

2022年度実施
予定企画

加入案内
(資料請求)



新たな表彰制度 「年次学長賞」授与式を開催

2022年5月25日(水)、国分寺キャンパス1号館1階学長室で年次学長賞授与式を行いました。年次学長賞は、本学部在籍し成績優秀と認められる学生に対し、報奨により勉学を援助し、奨励することを目的として2021年4月に制定されたもので、2021年度に優秀な学業成績を修めた2年次生6名に贈られました。

岡本英男学長は、「本学へ入学後、日々の授業にしっかり向き合い、試験勉強やレポート作成を頑張った学生の努力を称えたいと思い、この表彰制度を設けた。このような成績を修めるには相当な努力が必要であったと思う。学業ももちろんだが、大学生活ではさまざまなことにチャレンジしてほしい」などと受賞者へメッセージを贈りました。



コミュニケーション学部特設ページを更新 東経大の「国際」について解説する動画を掲載

2022年度春、新たに国際コミュニケーション学科を新設し、コミュニケーション学科を継承するメディア社会学科との2学科体制となった東京経済大学コミュニケーション学部が、本学で学ぶことのできる「国際」について映像を制作しました。国際コミュニケーション学科での学びや、学内でできる国際体験などを紹介しています。



コミュニケーション学部特設ページ
<https://www.tku.ac.jp/tokecomonthemove/>

2022年6月公開動画
「あなたが使っているモノ。どこでつくられていますか？」
—東京経済大学コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科—
<https://www.youtube.com/watch?v=Hg6W0748bjk&t=2s>



リアルタイムで大学構内をチェック！ キャンパスカメラをリニューアルしました

国分寺キャンパスの6号館に設置されているキャンパスカメラがリニューアルされました。リアルタイムで国分寺キャンパス構内から国分寺の市街地方面の様子を動画で見ることが出来ます。キャンパスカメラからの様子は以下URLまたは右の二次元コードよりご覧ください。 <https://www.tku.ac.jp/camera/>



『国富論』の貴重な初版本を紹介するイベントを開催

図書館1階ブラウジングスペースでは2022年5月18日(水)、TKU Library Lunch-time Sessionが開催されました。安川隆司経済学部教授が、「東経大の至宝：ある伯爵家に所蔵されていた『国富論』」というテーマで、本学図書館で所蔵している貴重書『国富論』の初版本について紹介しました。『国富論』の著者である経済学の父アダム・スミスに関することや彼が行った改革、初版本を所有していた第8代ローダーデイル伯の紹介が行われ、積極的に質問をする学生の姿も見られました。また、初版本を目にするという貴重な機会を得た参加者は、身を乗り出して覗いていました。

SDGs国分寺からの発信 第9回東京経済大学・国分寺地域連携推進協議会 フォーラム開催

東京経済大学と国分寺地域連携推進協議会主催のフォーラムを、2022年5月17日(火)に対面・オンライン併用形式で開催しました。「SDGs国分寺からの発信」と題した今回のフォーラムは、第1部の基調講演では、国分寺市のSDGsに関する取り組みを内藤達也国分寺市副市長が、市民と行政、企業がいかにして連携しSDGsを達成するかについてSDGs市民社会ネットワークの新田英理事務局長が講演しました。第2部のパネルディスカッションでは、国分寺地域の中でSDGsを達成するために行われているさまざまな取り組みについて、各分野の代表が報告し意見交換を行いました。



JR中央線で新シリーズ広告を展開 「その時、大倉喜八郎は動いた！」

JR中央線快速電車内窓上で「その時、大倉喜八郎は動いた！」と題した広告シリーズを新たに2022年3月から展開しています。本広告シリーズは、本学の前身である大倉商業学校を創立した大倉喜八郎の人物像に迫り、大倉翁の想いを受け継ぐ本学の教育システムを紹介します。

シリーズ第1回(2022年3月~4月掲出)は、大倉翁が、盟友・渋沢栄一とともに大倉商業学校の創立に至るまでの想いに焦点を当てました。第2回(2022年5月~6月掲出)は、大倉翁がビジネスにおいて大切にしていた「責任と信用」の考えを受け継ぐ本学のキャリア教育について紹介しました。第3回(2022年7月~8月掲出予定)は、「進一層」の気概で海外進出を果敢に行う大倉翁のベンチャー精神をテーマにしています。

大学公式サイト内において、本広告シリーズと連動した特設ページを設置しています。詳細は、右記URLまたは二次元コードよりご覧ください。



https://www.tku.ac.jp/spirit_of_kihachiro/

グローバルラウンジ「コトパティオ」で オーストラリア文化イベント開催

国分寺キャンパス6号館2階グローバルラウンジ「コトパティオ」では2022年5月25日(水)、オーストラリア文化イベントが開催されました。コトパティオコーディネーターのマーカス氏が中心となり、オーストラリアでしか使われていない英単語で英作文を作ったり、アメリカ英語とオーストラリア英語の表現の違いをクイズ形式で学んだりしました。リズミカルな洋楽が流れるラウンジは和気あいあいとした雰囲気になり、学生らはリラックスしながら楽しんで参加していました。イベントを主催したマーカス氏は、「学生たちが海外の文化を知るきっかけになればと思います。コトパティオでは英語のレッスンはしないので、友達を作りに来るのも、短時間の利用もOK」とコメントを寄せました。

東京経済大学報 第55巻第1号(夏号) アンケート

アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で
10名様に東経大グッズをプレゼントさせていただきます。
右の二次元コードから、ぜひご回答をお願いします。

